



学生番号: 14103509	クラス: H	氏名: 森田 聖子	提出日: 2007 年 1 月 11 日
論題	おサイフケータイ導入によるクレジット決済に対する消費者意識		

【 キーワード 】 クレジット決済、おサイフケータイ、多属性態度モデル、積和、判別分析、イノベーター

【 論文要旨 】

本論文の目的は、おサイフケータイ導入によるクレジット決済に対する消費者意識の変化について考察することである。

2004 年6月、IC チップを搭載した携帯電話やカードを店の読み取り機にかざすだけで代金を支払えるサービスが登場した。これにより、年間60兆円規模と言われる1回3千円以下の小額決済の市場開拓が期待されている。しかし、日本はまだまだカード社会とはいいがたく、“現金主義”と言われているのが現状である。そしてそこには、消費者のクレジット決済に対するネガティブな態度が存在しているのではないかと考えた。

クレジットカードに対してポジティブな意識を持っている消費者は、クレジットカードの利用金額、利用頻度ともに高い数値を示している。「態度は内面だけで完結してしまうのではなく、購買行動へと結びついて商品やサービスの売り上げを大きく左右するからこそ大切な調査対象であり、また、消費者の経験やマーケティング・コミュニケーションによって変化しうるからこそ重要視されているのである。」とあることから、クレジットカードに対するネガティブな意識を消費者から排除し、ポジティブな意識を消費者が持つようになることで、クレジットカードの利用率は上がるのではないかと考えた。

また、消費者のネガティブな意識の理由としてあげられた、カード犯罪やカード破産についてふれ、従来のクレジットカードによる決済に比べて、IC 機能・IC カードロック機能による犯罪抑制効果、小額でも現金を持ち歩かなくて済むキャッシュレス決済、利用履歴検索による使いすぎ防止の改善がなされているおサイフケータイを用いたクレジット決済によって、クレジット決済に対する消費者の意識がポジティブなものへと変化しうるのではないかと考えた。

仮説の導出では、製品ライフサイクル・態度・多属性態度モデルの理論について述べ、そこから仮説を導出した。そして、分析の結果から考察し、研究の反省と提案へと結んでゆく。反省の際には、特にイノベーター理論について言及し考察している。提案をする際に、被験者のおサイフケータイに関する知識の程度と、態度スコアの変化したグループとを判別分析にかけ、その結果と理論的背景の態度をもとに、提案へと結びつけた。